

コンセプト・未制作

 Eco Heroes Experience・テレビフォーマット

大人が答えた ときに起こる こと、それ が番組です。

台本なしのファクチュアル番組。9～17歳のクラスが、自分たちの世界にある現実の課題について、率直な質問を自ら書きます。ヒーローがカメラの前でそれに答え、そのあと子どもたちと直接会います。台本は一切ありません。

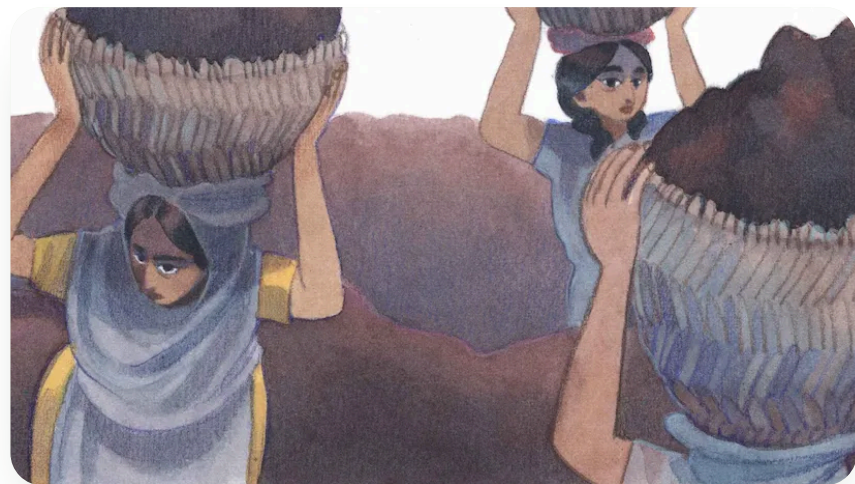
2026年10月 eco-heroes.org/experience/tv スペイン・ジローナ

アイデア

子どもが問う。大人が答える。みんなが見る。

世界の大きな課題を扱う番組の多くは、大人が子どもに説明するものです。このフォーマットはそれを逆にします。質問を決めるのは子どもたち。問題をつくっている大人、あるいは解決しようとしている大人が、まずカメラの前で、次に面と向かって、それに答えなければなりません。

質問は決してふるいにかけられず、書き換えられることもありません。それがこのフォーマットで唯一、破れないルールです。



 概要

ひとつのフォーマット、 世界へ広がるように。

ジャンル

台本なしのファクチュアル。画面には9～17歳の子どもたち、ソファには親や祖父母。

尺

標準26分、またはファミリー向けゴールデンタイムの45～52分。デジタル向けの短尺版もあらかじめ組み込み。

エピソードの原動力

国連の17の持続可能な開発目標：1エピソードにつき1つの目標、複数シーズンを見据えて。

核となる場面

Mirror Moment™（ミラー・モーメント）：ヒーローが子どもたちの反応をその場で見る。台本は一切なし。

どこでも展開可能

ヒーロー、学校、言語、目標は各地域ごとにローカル。5つのフェーズの構成は決して変わりません。

編集面での裏付け

Eco Heroesは、目標ごとに1冊、計17冊の絵本シリーズを教育分野向けに出版する独占的な世界ライセンスを保有しています。

 **Confrontation Loop™** (対面のサイクル)

毎エピソード、5 つのフェーズ。

毎回同じ骨格なので、視聴者はいつも自分がどこにいるかわかり、対面に向けて緊張感が高まっていきます。

01

Question Bank Builder

クラスが自分たちの問いを書く。誰もフィルターをかけない — それがルール。

02

Hero Interview

ヒーローがカメラの前で子どもたちの問いに答える。

03

Confrontation Moment

問いを書いた子どもたちが、ヒーローと直接向き合う。

04

The Mirror Moment

ヒーローが子どもたちの撮影された反応を、生で、カメラを顔に向けられたまま見る。

05

The School Return

答えが教室に戻り、ミッションになる。

1エピソード・26分枠の構成例

30分で、問いから ミッションへ。

- コールドオープン。地元の町にある課題を、子どもたちの目を通して。
- 質問づくり。クラスがカメラの前で質問を書き、選びます。
- ヒーローインタビュー。現場にいるヒーローが、ひとつずつ答えます。
- 対面。子どもたちとヒーローが会い、台本なしで追加の質問が飛び交います。
- Mirror Moment。ヒーローが、答えに対する子どもたちの反応を見ます。
- 教室への持ち帰り。クラスは学んだことを、家庭と学校でのミッションに変えます。

時間配分は26分枠に向けた設計案です。45～52分版では各フェーズにより多くの時間を割き、家庭での家族のパートを加えます。



🌈 シーズンの原動力

17の目標。その 背後に17冊の本。

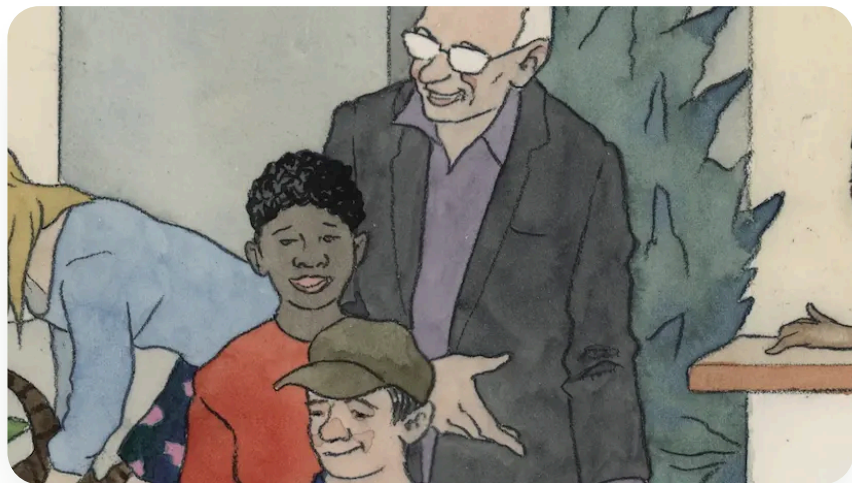
各エピソードは、貧困や飢餓から気候、海洋、平和まで、持続可能な開発目標を1つずつ取り上げます。どの目標にもすでに、ライセンス取得済みの絵本、2つの年齢版の1分間ミッション動画、授業案があります。そのため各エピソードは完成・検証済みの素材から出発し、教室で使える教材を残します。



画面の向こうへ

エピソードが終わり、 ミッションが始まる。

- どのエピソードも、子どもたちが引き受けたのと同じミッションで締めくくられるので、家で見ている人も挑戦できます。
- Eco Heroesプラットフォームは現在稼働中です：絵本、字幕付きの442本のミッション動画、アドベンチャーゲーム、クイズ、51の授業案を13言語で。
- 先生にはそのエピソードの目標のためのすぐ使える授業を、家族には家庭でのミッションを。
- 家庭の視聴者の参加（クイズ、QRコード、メッセージ）もフォーマット設計の一部です。



🌈 どの地域でもローカルに

変わるもの、決して 変わらないもの。

毎回ローカル

学校、子どもたち、ヒーロー、言語、そしてその目標の地元での顔：農家、医師、市長、水道技術者、企業の経営者。

毎回同じ

ふるいにかけない子どもたちの質問、同じ順序の5つのフェーズ、Mirror Moment™、そして学校に戻るミッション。

このフォーマットが土台とするプラットフォームは、すでに13言語で稼働しています：英語、スペイン語、カタルーニャ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語、アラビア語、日本語、韓国語、中国語、デンマーク語。

現状

フォーマットの設計案であることを、率直に。

0

撮影済みのエピソード

0

決まっている放送局・制作パートナー

17

冊のライセンス取得済み絵本がフォーマットの土台

442

本のミッション動画が現在存在

映像は制作されておらず、放送局や制作パートナーも決まっておらず、視聴データも存在しません。フォーマットメモとエピソード構成はご要望に応じてお送りします。このフォーマット、その構成、名称の付いた要素（Confrontation Loop™とMirror Moment™）はEco Heroesに帰属します。

🚦 次のステップ

フォーマットについて、お話ししましょう。

放送局、プロデューサー、共同制作パートナーの皆さま：創設者 Karim Zouhdi · info@eco-heroes.org · +34 607 918 200 · eco-heroes.org/contact。Eco Heroes 全体の概要は eco-heroes.org/experience でご覧いただけます。